

実践記録

	主な学習活動と児童の反応 <input type="checkbox"/>	指導上の留意点
導入	1 家族が自分のためにしてくれていることや、自分が家族に対して十分にできていないことについて話し合う。 2 めあてを立てる。 <input type="checkbox"/> 家族は、自分にとってどんな人だろう。	<input type="checkbox"/> 問題意識をもたせるために、家族がしてくれていることに対して感謝できていなかったり、反抗してしまったりする時の気持ちを想起させる。
展開	3 話を読み、話し合う。 (1) ぶりぶりしている子どもいのししの気持ちについて話し合う。 <input type="checkbox"/> <ul style="list-style-type: none"> 怒られて、嫌だなと思っている。 ぼくもゲームをやめなさいと言われてたけど、やめなかった。その時、うるさいと思ったよ。 (2) お母さんいのししを待つ子どもいのししが、どんなことを言うか話し合う。(ワークシートの活用) <input type="checkbox"/> <ul style="list-style-type: none"> ごめんなさい。言うことを聞けばよかった。 ぼくのためだったんだ。 ぼくを守ってくれたんだね。ありがとう。 4 自分のことを振り返る。(付箋の活用) <input type="checkbox"/> <ul style="list-style-type: none"> 疲れていても、休みの日は遊んでくれてありがとう。 いつも守ってくれてありがとう。 病気の時に仕事を休んでくれてありがとう。 	<input type="checkbox"/> 話の内容を理解しやすくするために、紙芝居風にして話を読む。 <input type="checkbox"/> 子どもいのししの気持ちを自らの体験場面での気持ちと重ね合わせて考えさせるために、怒っている子どもいのししの気持ちから自己の経験を想起させる。 <input type="checkbox"/> いつも自分のことを考えてくれる家族の思いに気付かせるために、母を待つ子どもいのししの気持ちに共感させる。 <input type="checkbox"/> 自分に愛情を注いでくれている家族に対する考えを広げたり深めたりするために、付箋に家族にしていることに対しての気持ちを書かせ、ペアで交流したり、全体で発表させたりする。
終末	5 家族を題材にした作文を聞き、家族の自分に対する愛情について考える。	<input type="checkbox"/> 家族の自分に対する愛情について考えを深めていけるようにする。

実践を振り返って

【成果】

- 事前に読み聞かせを行っていたので、教材の内容を理解することができていた。そのため、子どもいのししの置かれた場面や状況が捉えやすくなり、子どもいのししの心情と自分自身の体験場面の内面とを重ね合わせて考える姿が見られた。
- 中心発問で、ワークシートにお母さんの子どもを守る気持ちや愛情に気付かせたことで、自分のことを振り返った時に、導入での自分の振り返りよりも深く考えることができていた。

【課題】

- 役割演技も入れることで、お母さんを待つ子どもいのししの気持ちを共感的に考えることができ、家族に対する気持ちや考えについて深めたり広げたりできると思われる。
- 終末段階で、声に出して読もうの「1. 羽のある友」を読むことで、家族が子どもを大切に思っていることや、家族の自分に対する愛情について改めて感じさせることができると思われる。

【ワークシートの活用】



【付箋の活用】

